

Calibrite® スキャナー ICC プロファイル ワークフロー Scanner

対応する Calibrite ColorChecker ターゲットが必要です:

- Calibrite ColorChecker Classic (24 パッチ)
- Calibrite ColorChecker Digital SG (140 パッチ)

スキャナープロファイルを作成する際は、ColorChecker Digital SG を使用するとより良い効果が得られます。

A: ColorChecker ターゲットのキャプチャ

- Calibrite ColorChecker ターゲットをスキャナーに置き、プレビュー スキャンを行います。
- ターゲット領域を切り抜き、その周囲にマージンを残します。
- 自動補正オプションやアンシャープマスク (USM) をオフにします。
- 16 ビットおよび目的の解像度に設定します。
- プレビュー (必要に応じてスキャン) を確認し、露出が以下のように正しいことを確認します:
 - 白パッチの RGB 値は 220-245 の範囲内。
 - - 黒パッチは 7 以上。
 - - SG チャート中央付近の中間グレーパッチ H5、Classic ターゲットの黄色の下のグレーは理想的には 128/128/128 ± 30 の範囲内。
 - - グレーパッチの個別 RGB 値は各チャンネル間で ± 3 以内であること。
- これを達成するには、スキャニングソフトウェアで利用可能な手動ツール (「露出」「ガンマ」「ホワイト/グレーバランス」など) を調整してください。ただし「自動」オプションは避けてください。
- 調整をプリセットとして保存し、将来のスキャンに使用するか、保存できない場合は値を記録しておきます。
- ターゲット画像をスキャンして保存し、最終スキャンで露出パラメータが想定通りであることを確認してください。

B: スキャナープロファイルの作成

- Calibrite PROFILER を起動します。
- SCANNER ワークフローを選択します - 対応する Calibrite デバイスが接続されている必要があります。
- アプリケーションの指示に従ってターゲットを読み込み、位置を指定します。
- プロファイルを保存します。
- 画像編集アプリケーションを起動 (または再起動) し、新しく保存したスキャナープロファイルを利用できるようにします。

C: 画像スキャンとスキャナープロファイルの適用

- キャリブレーションターゲットと同じ設定で必要な画像をスキャンして保存します。
- 一部のスキャニングアプリケーションでは、カスタムスキャナープロファイルをソフトウェアで直接設定し、スキャンした画像ファイルにプロファイルを自動的に埋め込むことができます。
- または、スキャンした画像を画像編集アプリケーションで開き、「ICC プロファイルを割り当て」オプションを選択します。Photoshop では「編集」メニュー内にあり、「プロファイルを割り当て...」と呼ばれています。また Photoshop では、設定によっては画像を開く際にプロファイルを割り当てるよう求められる場合があります。注意: プロファイルを割り当てる前に画像を開く利点は、キャプチャ直後の画像とスキャナープロファイルを割り当てた後の改善結果を比較できることです。
- 画像にスキャナープロファイルを適用した後は、通常、画像編集ソフトウェアで「プロファイルに変換...」オプションを使用して、スキャナーカラースペースから Adobe RGB、P3、sRGB などの標準作業カラースペースに変換する方が一貫性があります。